

県北地方振興局長賞

今私たちにできること

福島市立清水中学校

三年 菅 藤 陽 香

私は幼い頃、

「道路を作る時は、誰がお金を払うの。」

と聞いたことがある。学校も道路も水道も、

誰がどのように運営しているのか不思議だったのだ。その時は家族が、

「みんなが一生懸命働いて、お金を出し合っているんだよ。」

と教えてくれたことを覚えている。

日本の国、私達の住んでいる県や市町村が

成り立つためには、莫大なお金がかかっている。さらに、世界の貧しい国々を助ける費用

も、国家予算であると学んだ。大事なことは、

予算になるためのお金は、国民一人ひとりが

負担している税金でまかなわれているということである。働く全ての人が責任を持って、

毎年毎月納めている税金によって、日本という国が健康でこの地球に存在しているのだ。

国全体を人の体とする

と、税金は血液である

と思う。血管は私達の体全

体のすみずみまで網目の

ように広がっている。酸

素や栄養を運ぶ血液は、

夜も昼も休むことなく流れて私達の体を保っている。つまり、税金が日本という体全体に

行き渡ってこそ、国民の生活が生き生きと保たれるということである。税金が不足したら

社会の秩序が失われ、国全体が急激に衰退してしまうのは明白である。

しかし、今の日本は、少子高齢化という大きな問題を抱えている。子どもが少くないとい

うことは、将来働く若者が減り、高齢化するということは、お年寄りの介護の人的費用や食

費、医療費などの割合が大きくなるということ

とである。だからと言って、このことを嘆いたりお年寄りを重荷に思っているといけない。私

達は今、中学生である。生きるということの大切さ、命の重さについて十分理解している。

大変な時こそ、助け合うことが重要なのでし

っかり納め、少子高齢化社会を支える担い手

にならなければいけないのだ。

まず私達が今できることを考えれば、しつ

かり勉強する、運動をして健康な身体を作る、

社会をきちんと見る目を育てることである。

私達若者は、自分の役割をしっかりと認識し

て社会人になり、自分の責任を果たすべきだ

と思う。

確かに税金を納めることには大きな努力が

必要であり、予算として使うのにも多くの人の知恵と工夫が必要である。しかし、有効に

使われることにより税金は大きなエネルギー

となり、国は元気に輝くのではないだろうか。

日本がいつまでも元気で、明るい社会を保つ

ことができるように、まず私達一人ひとりが

将来の夢に向かって精一杯走り続けることが

大切だと思う。そのことがより素晴らしい日

本を作る力になり、健康で生きる社会を作り

上げていく源となると思う。税金は、縁の下

で力を発揮し、人は人を助け、社会は国を支

え、国の力は私達全員を元気にしてくれるこ

とを信じて、精一杯生きていきたいと思う。